

森田達也, 木澤義之 (監修)
西 智弘, 松本禎久, 森 雅紀, 山口 崇 (編)

緩和ケアレジデントマニュアル 第2版

勝俣範之

日医大武蔵小杉病院教授・腫瘍内科

緩和ケアは、「診断された時から
の緩和ケア」として、がんが診断さ
れた時から提供されるべきとしてい
ます (厚労省, 2012 年)。この『緩
和ケアレジデントマニュアル 第2
版』は、日本の緩和ケアの第一人者
の先生方が中心になって、最新の情
報をもとにつくられた実践的な教科
書であり、マニュアルです。

近年、緩和ケア研究は、治療研究
にも劣らず、たくさんの臨床研究が
行われ、多くのエビデンスが積み重
ねられてきています。本書では、そ
の得られた最新かつ最善のエビデ
ンスをベースに、きちんとレビューさ
れ、丁寧な記載がなされている点が
素晴らしいと思います。また、文献
には PMID を記載してくれている
ので、実際に参照する上でとても便
利です。さらに、おのおのの治療や
ケアに対して★がつけられており、
★は「観察研究などがある」、★★
は「RCT が1つある」、★★★は
「メタアナリシスまたは複数の RCT
がある」としていて、とてもわかり

やすいです。

本書は、がんの緩和ケアだけでは
なく、非がんの緩和ケアについても
書かれています。今後は非がん患者
にも緩和ケアが広がっていくと考え
られますので、がん以外の医療従事
者にとっても役に立つものと思われ
ます。細かいところですが、表紙の
裏側の見返しの部分にはオピオイド
の換算表が載っているため、必要な
ときにはすぐ調べることができます。
このように細かいところまで気を配
られていますし、各項目の記述に関
しては、きちんとレビューがなされ
ているせいか、かなり細かいエビデ
ンスに関しても、信頼できる記述と
なっています。私も数多くの書籍の
編集作業をしてきましたが、この本
のように多くの執筆者がいる場合、
整合性の問題やエビデンスの考え方
を統一させる点など、編集作業は並
大抵ではなかったと思われますが、
編集作業をされた監修、編集の先生
方に敬意を表したいと思います。

今後、がん診療で大切なことは、

がん治療医と緩和ケア医との連携を
どのようにうまくやっていくのか、
という点であると考えています。本
書では、早期緩和ケア (early palli-
ative care) に関しては触れられて
いませんが、早期緩和ケアは、がん
治療医と緩和ケア医が連携して行っ
ていくべき大切なことです。次
回改訂時には、早期緩和ケアもぜひ
紹介していただきたいと思います。

この本は、将来緩和ケアをめざす
若き医師だけではなく、緩和ケアに
かかわる医師を含めた医療従事者は
必携の本と思われます。また、がん
治療医もぜひ手に取ってほしいと思
います。そして、日本の緩和ケアの
質が少しでも向上し、がん患者さん
の助けになることができるように期
待します。

●B6 変型/頁 536/2022 年 5 月

定価：3,960 円

(本体 3,600 円+税 10%)

[ISBN978-4-260-04907-8]

医学書院 刊